

平成27年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力 「セント・エリザベス県緊急対応改善計画」引渡式

2017年5月12日、中野大使は、セント・エリザベス県のジャンクショ
ン消防署にて行われた、平成27年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無
償資金協力「セント・エリザベス県緊急対応改善計画」の引渡式に出席し、3
台の中古消防車および1台の中古水タンク車をセント・エリザベス県政府事務
所に寄贈しました。

県土の約4割が農地として利用されているセント・エリザベス県では、多くの
県民が農業に従事しており、主に乾季に発生する農地火災が県民の安全な生活
を脅かす脅威となっていました。ジャマイカ消防隊（JFB）の統計によると、
現在までにセント・エリザベス県では2,256件もの農地火災が発生しており、
火災発生時の緊急対応力の強化が喫緊の課題となっていました。しかしながら、
県内には現在2台しか消防車が無く、また、干ばつによる水不足も影響し、消
防隊が出動するも消火に至らないケースが跡を絶ちませんでした。

このプロジェクトでは、日本外交協会（SPJD）により整備された3台の
中古消防車および1台の中古水タンク車を供与することにより、火災に対する
緊急対応能力を強化し、県民が安全な生活を送ることに貢献することを目的と
しています。

当日の引渡式へは、マッケンジー地方政府・コミュニティ開発大臣、スペン
サー・ジャマイカ消防隊長代行、サングスター・ブラックリバー市長を含む、
セント・エリザベス県政府事務所関係者など約50名が参列しました。

マッケンジー大臣をはじめとする来賓は、式典でのスピーチで日本の多岐に
わたる支援に対し感謝の意を表するとともに、供与された4台の車両を大切に
使用することを約束しました。

中野大使は、県民が安全に生活できる環境を整えることは、人間の安全保障
の観点から非常に重要であり、セント・エリザベス県政府事務所およびジャマ
イカ消防隊とパートナーとなり、同プロジェクトを通じジャマイカの国民を支
援できることを大変嬉しく思うと述べました。



(左) セント・エリザベス県議会に供与された3台の消防車と1台の水タンク車
(右) 本使スピーチ



(左) デスモンド・マッケンジー地方政治・コミュニティ開発大臣によるスピーチ
(右) 車両のキーの受け渡し



(左) 供与された車両のエンジンをかけるマッケンジー大臣と本使
(右) レイモンド・スペンサー ジャマイカ消防隊長より車両の説明を受けるマッケンジー大臣と本使